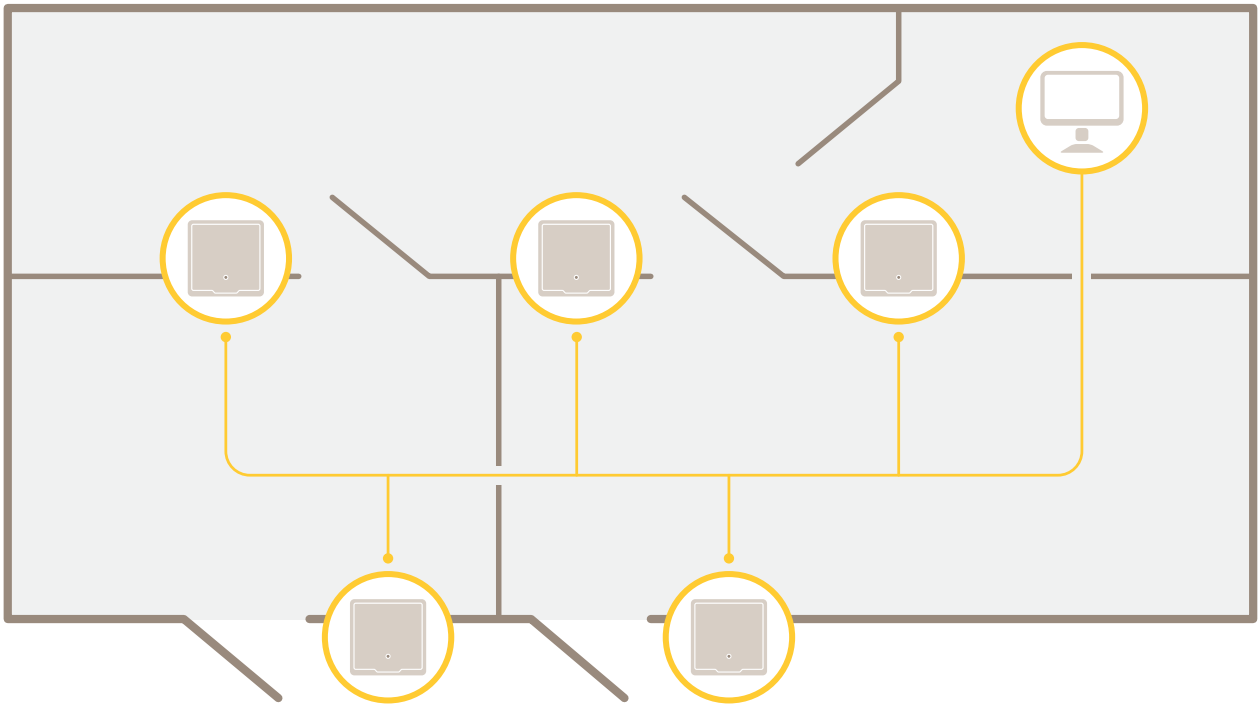
AXIS A1610-B Network Door Controller

ユーザーマニュアル

目次

ソリューションの概要 3
使用に当たって 4
ネットワーク上のデバイスを検索する 4
ブラウザーサポート 4
装置のwebインターフェースを開く 4
管理者アカウントを作成します。 4
安全なパスワード 5
デバイスのソフトウェアが改ざんされていないことを確認する 5
webインターフェースの概要 5
デバイスを構成する 6
AXIS A9910を追加する 6
エレベーターの制御 6
ドアオーバーライド 7
OSDP LEDプロファイル 7
カード形式： 9
webインターフェース 10
詳細情報 11
サイバーセキュリティ 11
署名付きOS 11
セキュアブート 11
Axis Edge Vault 11
AxisデバイスID 11
仕様 12
..... 12
製品概要 12
..... 12
LEDインジケーター 12
ボタン 13
コントロールボタン 13
コネクター 13
ネットワークコネクター 13
電源の優先順位 13
リーダーコネクター 14
監視入力 15
ドアコネクタ 15
リレーコネクタ 16
補助コネクタ 17
外部コネクタ 18
電源コネクター 18
12 Vバックアップ電源入力 19
トラブルシューティング 20
工場出荷時の設定にリセットします。 20
AXIS OSのオプション 20
AXIS OSの現在のバージョンを確認する 20
AXIS OSをアップグレードする 21
技術的な問題と解決策 21
パフォーマンスに関する一般的な検討事項 23
サポートに問い合わせる 23

ソリューションの概要



ネットワークドアコントローラーは、既存のIPネットワークに容易に接続して給電することができ、特殊な配線は必要ありません。

各ネットワークドアコントローラーは、ドアの近くに容易に取り付けることができるインテリジェントデバイスです。最大4台のリーダーに給電したり制御したりできます。

使用に当たって

ネットワーク上のデバイスを検索する

Windows®で検索したAxisデバイスにIPアドレスの割り当てを行うには、AXIS IP UtilityまたはAXIS Device Managerを使用します。いずれのアプリケーションも無料で、*axis.com/support*からダウンロードできます。

IPアドレスの検索や割り当てを行う方法の詳細については、*IPアドレスの割り当てとデバイスへのアクセス方法*を参照してください。

ブラウザーサポート

以下のブラウザーでデバイスを使用できます。

	Chrome™	Edge™	Firefox®	Safari®
Windows®	✓	✓	*	*
macOS®	✓	✓	*	*
Linux®	✓	✓	*	*
その他のオペレーティングシステム	*	*	*	*

✓:推奨

*:制限付きでサポート

装置のwebインターフェースを開く

1. ブラウザーを開き、Axis装置のIPアドレスまたはホスト名を入力します。
   本製品のIPアドレスが不明な場合は、AXIS IPUtilityまたはAXIS DeviceManagerを使用して、ネットワーク上のデバイスを検索してください。
2. ユーザー名とパスワードを入力します。装置に初めてアクセスする場合は、管理者アカウントを作成する必要があります。*管理者アカウントを作成します。, on page 4*を参照してください。

AXIS OS搭載デバイスのWebインターフェースにおけるすべての機能および設定の説明については、*AXIS OS Webインターフェースヘルプ*を参照してください。

管理者アカウントを作成します。

装置に初めてログインするときには、管理者アカウントを作成する必要があります。

1. アカウントを入力します。
2. パスワードを入力します。*安全なパスワード, on page 5*を参照してください。
3. パスワードを再入力します。
4. 使用許諾契約書に同意します。
5. [Add account (アカウントを追加)] をクリックします。

重要

装置にはデフォルトのアカウントはありません。管理者アカウントのパスワードを紛失した場合は、装置をリセットする必要があります。*工場出荷時の設定にリセットします。, on page 20*を参照してください。

安全なパスワード

重要

ネットワーク経由でパスワードやその他の機密性の高い設定を行う際は、HTTPS (デフォルトで有効) を使用してください。HTTPSは、安全で暗号化されたネットワーク接続を可能にし、パスワードなどのセンシティブなデータを保護します。

デバイスのパスワードは主にデータおよびサービスを保護します。Axisデバイスは、さまざまなタイプのインストールで使用できるようにするためパスワードポリシーを強制しません。

データを保護するために、次のことが強く推奨されています。

- 8文字以上のパスワードを使用する (できればパスワード生成プログラムで作成する)。
- パスワードを公開しない。
- 一定の期間ごとにパスワードを変更する (少なくとも年に1回)。

デバイスのソフトウェアが改ざんされていないことを確認する

装置に元のAXIS OSが搭載されていることを確認するか、またはセキュリティ攻撃が行われた後に装置を完全に制御するには、以下の手順に従います。

1. 工場出荷時の設定にリセットします。*工場出荷時の設定にリセットします。, on page 20*を参照してください。
   リセットを行うと、セキュアブートによって装置の状態が保証されます。
2. デバイスを設定し、インストールします。

webインターフェースの概要

このビデオでは、装置のwebインターフェースの概要について説明します。



Axis装置のwebインターフェース

デバイスを構成する

装置の設定方法については、*AXIS Camera Station*ユーザーマニュアルまたはサードパーティ製のソリューションを参照してください。

AXIS A9910を追加する

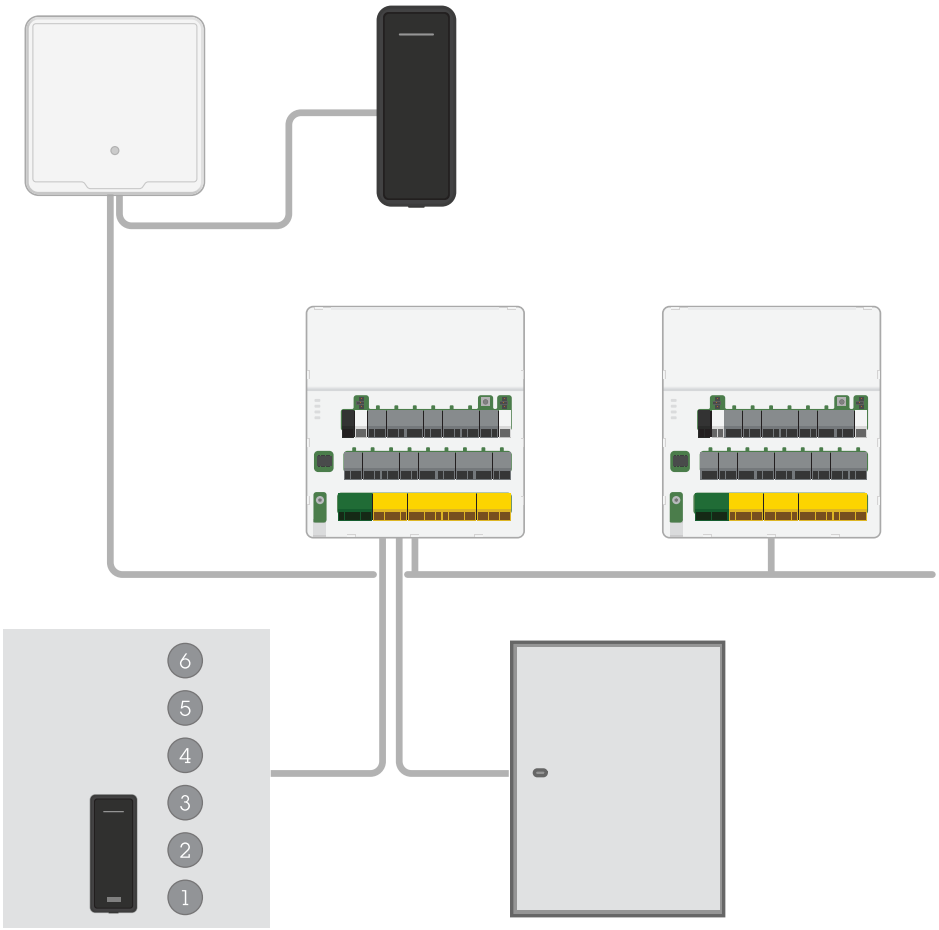
- ドアコントローラーのWebインターフェースで、[Device (デバイス)] > [I/Os and relays (I/Oとリレー)] に移動します。
- [Add encryption key (暗号化キーの追加)] をクリックします。
- すでに暗号化キーを生成している場合は、そのキーを入力して [OK] をクリックします。
- 暗号化キーは、以下の手順に沿って生成します。
  - [Generate key (鍵を生成する)] をクリックします。
  - [Export key (キーをエクスポートする)] をクリックしてキーを保存します。暗号化キーを紛失すると、デバイスへアクセスできなくなります。
  - [OK]をクリックします。
- [Add AXIS A9910 (AXIS A9910を追加する)] をクリックします。
- 名前を入力し、使用するRS485ポートとアドレスを選択します。
- [OK]をクリックします。

エレベーターの制御

エレベーター室内のリーダーによって、ドアコントローラーとAxis拡張モジュールを使用してフロアへのアクセスを制御できます。

1つのドアとAxis拡張モジュールにリンクされた最大64のフロアに接続できます。

- コントローラーのリーダーポートの1つは、拡張モジュールに使用します。
- もう一方のリーダーポートは、エレベーターキャビン内に設置するリーダーに使用します。



ドアオーバーライド

重要

この機能はドアリレーを直接制御し、AXIS Camera Stationでのリレー設定をオーバーライドします。この機能は、Axisサポートから指示があった場合のみ使用します。

1. AXIS Camera StationのSecure Entryサービスを停止します。
2. ドアコントローラーのWebインターフェースで、**[Advanced (詳細設定)]** > **[Door override (ドアオーバーライド)]** に移動します。
3. ページの内容をよく読んでから **[I understand (理解しました)]** をクリックします。
4. **[Door override (ドアオーバーライド)]** をオンにし、**[Enable (有効にする)]** をクリックします。
5. ドアリレーに移動し、**[Lock (ロック)]**、**[Unlock (ロック解除)]**、または**[Access (アクセス)]** をクリックし、ドアのロック、ロック解除、またはアクセス権の付与を行います。
6. 設定するリレーに移動し、**[Activate (有効にする)]** または **[Deactivate (無効にする)]** をクリックしてリレーを有効または無効にします。

OSDP LEDプロファイル

OSDPリーダーのLEDプロファイルをカスタマイズして、さまざまなイベントに応じてライトや音声を設定することができます。プロファイルの完全な一覧については、*LED profiles (LEDプロファイル)* をご覧ください。

ライトと音声レベルの設定

1. [Peripherals (周辺機器)] > [Readers (リーダー)] > [OSDP LED profile (OSDP LED プロファイル)] に移動します。
2. [Light and audio levels (ライトと音声レベル)] のドロップダウンメニューを展開します。
3. スライダーを使って、LEDストリップ、LED逆光、音量の強さを調整してください。
4. [Save (保存)] をクリックします。

注

ライトや音声レベルのを変更すると、コントローラーに接続されているすべてのリーダーの設定が更新されます。

OSDP LED設定のテスト:

OSDP LED test (OSDP LEDテスト) メニューを使用すると、任意のリーダープロファイルの音声と照明の設定を確認できます。

OSDP LED プロファイルの設定を確認するには:

1. [Peripherals (周辺機器)] > [Readers (リーダー)] > [OSDP LED profile (OSDP LED プロファイル)] に移動します。
2. [OSDP LED test (OSDP LED テスト)] のドロップダウンメニューを展開します。
3. LEDフィードバックを選択します。
4. テストしたいリーダーを選択します。
5. [開始] をクリックします。
6. Edit feedback (フィードバックを編集) をクリックして、プロファイルの照明や音声の設定を変更します。
   - [Color (カラー)] ドロップダウンメニューから新規のカラーを選択します。
   - 該当する場合は、[Audio (音声)] ドロップダウンメニューから音声周波数を選択します。
   - また、[Reset to default value (デフォルト値にリセット)] をクリックして、プロファイルの設定をリセットすることもできます。
   - [Save (保存)] をクリックします。

OSDP LEDプロファイルの設定を変更する:

1. [Peripherals (周辺機器)] > [Readers (リーダー)] > [OSDP LED profile (OSDP LED プロファイル)] に移動します。
2. [OSDP LED profile (OSDP LED プロファイル)] に移動します。
3. 変更するプロファイルの横の をクリックします。
4. 以下の該当する設定を編集します。
   - [Behavior (挙動)] ドロップダウンメニューから、LEDがどの動作をすべきかを選択します。
   - [Color (カラー)] ドロップダウンメニューから、LEDの色を選択します。
   - LEDのDuration on (点灯時間) とDuration off (消灯時間) を設定します。
   - LEDの応答のRecurrence (繰り返し) を設定します。
   - [Audio (音声)] ドロップダウンメニューから、[Beep duration, on (ビープ音オンの持続時間)] と [Beep duration, off (ビープ音オフの持続時間)] を選択し、ブザー応答の [Recurrence (繰り返し)] を設定します。[Beep duration, on (ビープ音オンの持続時間)] と[Beep duration, off (ビープ音オフの持続時間)] の持続時間は同じにしてください。
5. [Save (保存)] をクリックします。

別のコントローラーから既存の設定をインポートする

1. [Peripherals (周辺機器)] > [Readers (リーダー)] > [OSDP LED profile (OSDP LED プロファイル)] に移動します。
2. [Import (インポート)] をクリックします。
3. アップロードしたいファイルを選択します。
4. Import (インポート) をクリックします。

現在の設定をエクスポートする

1. [Peripherals (周辺機器)] > [Readers (リーダー)] > [OSDP LED profile (OSDP LED プロファイル)] に移動します。
2. Export (エクスポート) をクリックします。
3. JSONファイルを保存する場所を選択し、[Save (保存)] をクリックします。

カード形式：

この機能は、上級者向けのものです。Card format (カードフォーマット) がオンになるとすぐに、以下が起こります。

- 37ビットの認証情報を使用している場合、最後の5ビットが削除されます。
- 64ビットの認証情報（QRコード）を使用している場合、最初の24ビットのシーケンスが削除されます。

認証情報の表示には、サンプルデータまたはカードリーダーのいずれかを使用できます。

1. [Advanced (詳細設定)] > [Card format (カードフォーマット)] に移動します。
2. 警告を確認した後[I understand (了解しました)] をクリックして、[Card format (カードフォーマット)] を有効にします。
3. [Reader data visualization (リーダーデータの表示)] のドロップダウンメニューから、使用するリーダーを選択します。
4. [Get reader data (リーダーデータを取得)] または[Use sample data (サンプルデータを使用)] をクリックして、カードの出力を生成します。この設定は、そのデバイスに登録されているすべてのカード所有者に適用されます。
5. [Trim reader data (リーダーデータをトリム)] をオンにすると、カードの認証情報から末尾のビットが削除されます。
6. [Enable (有効にする)] をクリックします。

webインターフェース

AXIS OS搭載デバイスのWebインターフェースで利用可能なすべての機能および設定については、*AXIS OS Webインターフェースヘルプ*を参照ください。

詳細情報

サイバーセキュリティ

サイバーセキュリティに関する製品固有の情報については、axis.comに記載されている製品データシートを参照してください。

AXIS OSのサイバーセキュリティの詳細情報については、『*AXIS OS強化ガイド*』を参照してください。

署名付きOS

署名付きOSは、ソフトウェアベンダーがAXIS OSイメージを秘密鍵で署名することで実装されます。オペレーティングシステムに署名が付けられると、装置はインストール前にソフトウェアを検証するようになります。装置でソフトウェアの整合性が損なわれていることが検出された場合、AXIS OSのアップグレードは拒否されます。

セキュアブート

セキュアブートは、暗号化検証されたソフトウェアの連続したチェーンで構成される起動プロセスで、不変メモリ (ブートROM) から始まります。署名付きOSの使用に基づいているため、セキュアブートを使うと、装置は認証済みのソフトウェアを使用した場合のみ起動できます。

Axis Edge Vault

ハードウェアベースのサイバーセキュリティプラットフォーム「Axis Edge Vault」により、Axisデバイスを保護することができます。装置のIDと整合性を保証し、不正アクセスから機密情報を保護する機能を提供します。これは、エッジデバイスセキュリティに関する専門知識を駆使して、暗号コンピューティングモジュール（セキュアエレメントやTPM）とSoCセキュリティ（TEEやセキュアブート）に基づき構築された強力な基盤により成り立っています。

AxisデバイスID

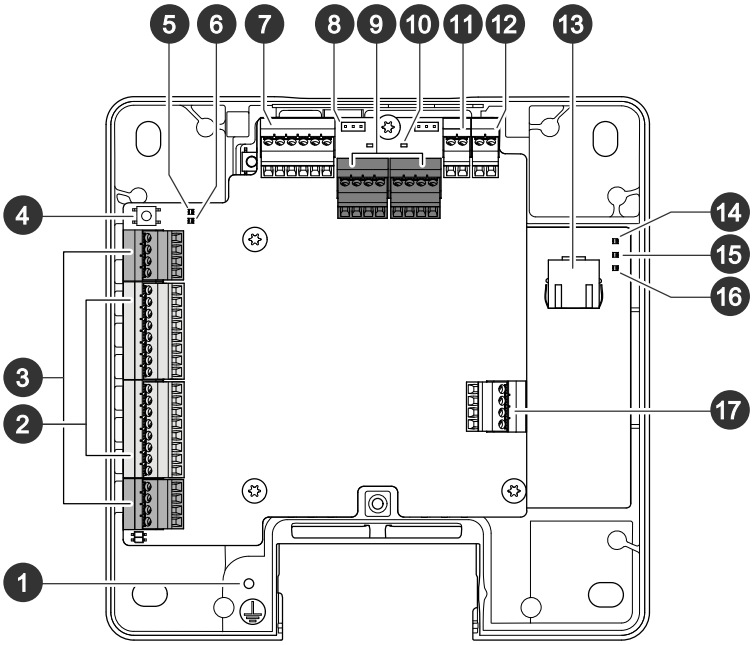
デバイスIDの信頼性を確立するには、デバイスの出所を確認できることが鍵となります。Axis Edge Vaultを搭載したデバイスには、生産工程で、工場でプロビジョニングされ、国際規格（IEEE 802.1AR）に準拠した一意のAxisデバイスID証明書が割り当てられます。これがデバイスの出所を証明するパスポートのような役割を果たします。デバイスIDは、Axisルート証明書により署名された証明要素として、セキュリティで保護されたキーストアに安全かつ永続的に格納されます。お客様のITインフラストラクチャーでデバイスIDを活用し、装置のセキュアな自動化オンボーディングや、装置のセキュアな識別に役立てることができます。

Axis装置のサイバーセキュリティ機能の詳細については、*axis.com/learning/white-papers*にアクセスし、サイバーセキュリティを検索してください。

仕様

ULのマークが付いたテキストは、UL 294インストールでのみ有効です。

製品概要



1 *アース位置*
2 *リーダーコネクター、×2*
3 *ドアコネクター、×2*
4 *コントロールボタン*
5 *リレー過電流LED*
6 *リーダー過電流LED*
7 *補助コネクタ*
8 *リレージャンパー、×2*
9 *リレーコネクター、×2*
10 *リレーLED、×2*
11 *12 Vバックアップ電源入力*
12 *電源コネクター*
13 *ネットワークコネクター*
14 *電源LED*
15 *ステータスLED*
16 *ネットワークLED*
17 *外部コネクタ*

LEDインジケーター

LED	カラー	説明
ネットワーク	緑	100 Mbit/sネットワークに接続している場合、点灯します。ネットワークパケットを送受信した場合、点滅します。
	黄色	10 Mbit/sネットワークに接続している場合、点灯します。ネットワークパケットを送受信した場合、点滅します。
	消灯	ネットワーク接続なし。
ステータス	緑	正常動作であれば緑色に点灯します。
	黄色	起動時、設定の復元時に点灯します。

	赤	アップグレードに失敗した場合に、ゆっくり点滅します。
電源	緑	正常に動作している.
	黄色	ファームウェアアップグレード中は緑とオレンジで交互に点滅します。
リレー過電流	赤	短絡または過電流が検知された場合に点灯します。
	消灯	正常に動作している.
リーダー過電流	赤	短絡または過電流が検知された場合に点灯します。
	消灯	正常に動作している.
Relay (リレー):	緑	リレーアクティブ。[1]
	消灯	リレーが無効です。

注

- ステータスLEDは、イベントの発生時に点滅させることができます。
- ステータスLEDを点滅させ、本製品を識別できるように設定することができます。[Setup > Additional Controller Configuration > System Options > Maintenance (設定 > 追加のコントローラー設定 > システムオプション > メンテナンス)] に移動します。

ボタン

コントロールボタン

コントロールボタンは、以下の用途で使用します。

- 製品を工場出荷時の設定にリセットする。*工場出荷時の設定にリセットします。, on page 20*を参照してください。

コネクター

ネットワークコネクター

Power over Ethernet Plus (PoE+) 対応RJ45イーサネットコネクター

UL:Power over Ethernet (PoE) は、44〜57 V DC、15.4 W / 30 Wを提供できる、UL 294認定Power over Ethernet IEEE 802.3af/802.3at Type 1 Class 3、またはPower over Ethernet Plus (PoE+) IEEE 802.3at Type 2 Class 4有限電源インジェクタによって供給される必要があります。Power over Ethernet (PoE) は、AXIS T8133 Midspan 30 W 1-portが搭載されたULによって評価されています。

電源の優先順位

本装置は、PoEまたはDC入力から電源を供給できます。*ネットワークコネクター, on page 13*および *電源コネクター, on page 18*を参照してください。

- 装置に電源が供給されていない状態でPoEとDCの両方を接続すると、PoEが電源供給に使用されます。
- PoEとDCの両方が接続されており、現在はPoEが電源を供給しています。PoEが失われた場合、本装置は再起動せずにDCを使用して電源を供給します。
- PoEとDCの両方が接続されており、現在はDCが電源を供給しています。DCが失われた場合、本装置は再起動し、PoEを使用して電源を供給します。
- 起動時にDCが使用されている場合、装置の起動後にPoEが接続されても、電源供給にDCが使用されます。

1. リレーが有効です。*COM*が*NO*に接続すると、リレーが有効になります。

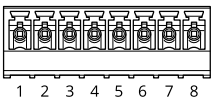
- 起動時にPoEが使用されている場合、装置の起動後にDCが接続されても、電源供給にPoEが使用されます。

リーダーコネクター

リーダーとの通信用のRS485およびWiegandの両プロトコルに対応する8ピンターミナルブロック×2。

指定の電源出力値は、2つのリーダーポート間で共有されます。つまり、ドアコントローラーに接続されるすべてのリーダー向けに12 V DC、500 mAが供給されます。

製品のWebページで使用するプロトコルを選択します。



RS485の設定

機能	ピン	注	仕様
DCアース (GND)	1		0 V DC
DC出力 (+12 V)	2	リーダーに電源を供給します。	すべてのリーダーに合わせて12 V DC、最大500 mA
RX/TX	3-4	全二重:RX.ハーフデュプレックス:RX/TX.	
TX	5–6	全二重:TX.	
設定可能 (入力または出力)	7–8	デジタル入力 – 動作させるにはピン1に接続し、動作させない場合はフロート状態 (未接続) のままにします。	0～最大30 V DC
		デジタル出力 - リレーなど、誘導負荷とともに使用する場合は、過渡電圧から保護するために、ダイオードを負荷と並列に接続します。	0～30 V DC (最大)、オープンドレイン、100 mA

重要

- コントローラーからリーダーに電力を供給する場合、適格なケーブル長は最大200 mです。
- コントローラーからリーダーに電力を供給しない場合に、次のケーブル要件を満たす場合、リーダーデータ用の適格なケーブル長は最大1000 mです:シールド付きツイストペア (1組)、AWG 20-16。

Wiegandの設定

機能	ピン	注	仕様
DCアース (GND)	1		0 V DC
DC出力 (+12 V)	2	リーダーに電源を供給します。	すべてのリーダーに合わせて12 V DC、最大500 mA
D0	3		

D1	4		
O	5–6	デジタル出力、オープンドレイン	
設定可能 (入力または出力)	7–8	デジタル入力 – 動作させるにはピン1に接続し、動作させない場合はフロート状態 (未接続) のままにします。	0～最大30 V DC
		デジタル出力 - リレーなど、誘導負荷とともに使用する場合は、過渡電圧から保護するために、ダイオードを負荷と並列に接続します。	0～30 V DC (最大)、オープンドレイン、100 mA

重要

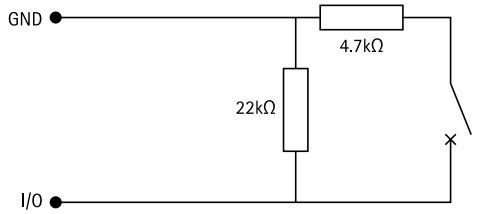
- コントローラーからリーダーに電力を供給する場合、適格なケーブル長は最大150 mです。
- コントローラーからリーダーに電力を供給しない場合に、次のケーブル要件を満たす場合、リーダーデータ用の適格なケーブル長は最大150 mです:AWG 20-16。

監視入力

状態監視入力を使用するには、下図に従って終端抵抗器を設置します。

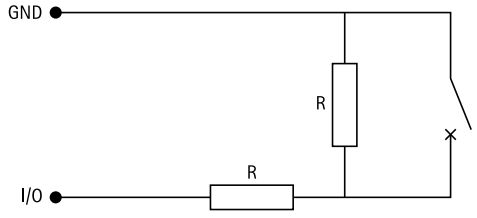
並列優先接続

抵抗器の値は 4.7 kΩ及び 22 kΩである必要があります。



直列優先接続

抵抗器の値は同じで、可能な値は1 kΩ、2.2 kΩ、4.7 kΩ、10 kΩです。



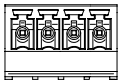
注

シールド付きツイストケーブルを使用することをお勧めします。シールドを0 V DCに接続します。

ドアコネクタ

ドア監視デバイス用4ピンターミナルブロック (×2) (デジタル入力)。

ドアモニターは終端抵抗器を使用した監視に対応しています。接続が中断されると、アラームがトリガーされます。状態監視入力を使用するには、終端抵抗器を設置します。状態監視入力の接続図を使用します。*監視入力, on page 15*を参照してください。



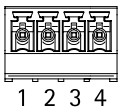
機能	ピン	メモ	仕様
DCアース	1, 3		0 V DC
入力	2, 4	ドアモニターとの通信対象。 デジタル入力/状態監視入力 - 有効にするにはピン1または3にそれぞれ接続し、無効にする場合はフロート状態 (未接続) のままにします。	0〜30 V DC (最大)

重要

以下のケーブル要件を満たす場合、ケーブルの長さは最大200 m (656フィート) です:AWG 24。

リレーコネクタ

ロックやゲートのインターフェースをコントロールするなどで利用可能なForm Cリレー用4ピンのターミナルブロック×2。



機能	ピン	メモ	仕様
DCアース (GND)	1		0 V DC
NO	2	Normally Open。 リレー装置の接続用。NOとDCアースの間にフェイルセキュアロックを接続します。 ジャンパーが使用されていない場合、2つのリレーピンは回路の残りの部分から電気的に分離されています。	最大電流 = リレーあたり2 A 最大電圧 = 30V DC
COM	3	コモン	
NC	4	Normally Closed。 リレー装置の接続用。NCとDCアースの間にフェイルセーフロックを接続します。 ジャンパーが使用されていない場合、2つのリレーピンは回路の残りの部分から電気的に分離されています。	

リレー電源ジャンパー

リレー電源ジャンパーが取り付けられている場合、12 V DCまたは24 V DCをリレーCOMにピンに接続します。

これはGNDピンとNOピン間、もしくはGNDピンとNCピン間のロックに接続するために使用できます。

電源	12 V DCでの最大電力[2]	24 V DCでの最大電力[2]
DC入力	1 800 mA	750 mA
PoE	900 mA	410 mA

注意

ロックに極性がない場合は、外部フライバックダイオードを追加することをお勧めします。

補助コネクタ

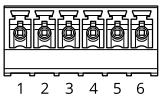
補助コネクターに外部装置を接続し、動体検知、イベントトリガー、アラーム通知などと組み合わせて使用することができます。補助コネクタは、0 V DC基準点と電力 (DC出力) に加えて、以下へのインターフェースを提供します。

デジタル入力 - 開回路と閉回路の切り替えが可能な装置 (PIRセンサー、ドア/窓の接触、ガラス破損検知器など) を接続するための入力です。

状態監視入力 - デジタル入力のいたずらを検知する機能が有効になります。

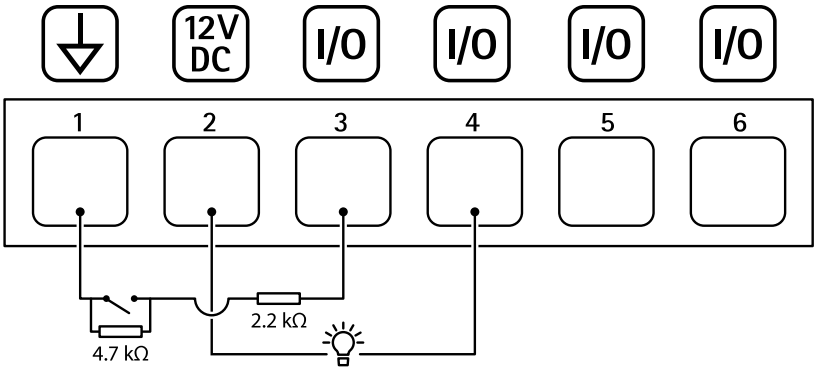
デジタル出力 - リレーやLEDなどの外部デバイス接続用。接続された装置は、VAPIX® Application Programming Interfaceまたは製品のウェブページからアクティブ化することができます。

6ピンターミナルブロック



機能	ピン	メモ	仕様
DCアース	1		0 V DC
DC出力	2	補助装置の電源供給に使用できます。 注:このピンは電源をリレーと共有しているため、安全な側で電源出力としてのみ使用できます。	12 V DC 最大負荷 = I/Oあたり50 mA
設定可能 (入力または出力)	3–6	デジタル入力/状態監視 – 動作させるにはピン1に接続し、動作させない場合はフロート状態 (未接続) のままにします。状態監視を使用するには、終端抵抗器を設置します。抵抗器を接続する方法については、接続図を参照してください。	0～30 V DC (最大)
		デジタル出力 – アクティブ時はピン1 (DCアース) に内部で接続し、非アクティブ時はフロート状態 (未接続) になります。リレーなどの誘導負荷とともに使用する場合は、過渡電圧から保護するために、負荷と並列にダイオードを接続します。内部12 V DC出力 (ピン2) が使用されている場合、各I/Oは12 V DC、50 mA (最大) の外部負荷に電源を供給できます。オープンドレイン接続を外部電源と組み合わせて使用する場合、I/Oは0～30 V DC、100 mAのDC給電を管理できます。	0～30 V DC (最大)、オープンドレイン、100 mA

2. 電源は2つのリレーとAUX I/O 12 V DCとの間で共有されます。

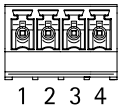


1 *DCアース*
2 *DC出力12 V、最大50 mA*
3 *I/O (状態監視として設定)*
4 *I/O (出力として設定)*
5 *設定可能I/O*
6 *設定可能I/O*

外部コネクタ

ガラスの破壊検知や火災検知などの外部デバイスで使用する4ピンターミナルブロックです。

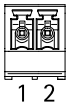
UL:このコネクターは、盗難/火災警報用途向けとしてはULによって評価されていません。



機能	ピン	メモ	仕様
DCアース	1, 3		0 V DC
設定可能 (入力または出力)	2, 4	デジタル入力 – 動作させるにはピン1または3に接続し、動作させない場合はフロート状態 (未接続) のままにします。	0～30 V DC (最大)
		デジタル出力 – 動作させるにはピン1または3に接続し、動作させない場合はフロート状態 (未接続) のままにします。リレーなどの誘導負荷とともに使用する場合は、過渡電圧から保護するために、負荷と並列にダイオードを接続します。	0～30 V DC (最大)、オープンドレイン、100 mA

電源コネクター

DC電源入力用2ピンターミナルブロック。定格出力が≤100 Wまたは≤5 Aの安全特別低電圧 (SELV) に準拠した有限電源 (LPS) を使用してください。



機能	ピン	メモ	仕様
0 V DC (-)	1		0 V DC
DC入力	2	Power over Ethernetを使用しないときのコントローラーへの電源供給用。 注:このピンは、電源入力としてのみ使用できます。	10.5～28 V DC、最大36 W

UL:アプリケーションに応じて適切な定格で、UL 294、UL 293、またはUL 603の認定を受けた電源によって供給されるDC電源。

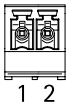
12 Vバックアップ電源入力

内蔵チャージャー付きバッテリーを使用するバックアップソリューション用です。12 V DC入力。

UL:このコネクターはULによって評価されていません。

重要

バッテリーの入力を使用する場合、外部3 Aスローブローフューズを直列に接続する必要があります。



機能	ピン	メモ	仕様
0 V DC (-)	1		0 V DC
バッテリーの入力	2	他の電源が利用できないときのドアコントローラーへの電力供給用です。 注:このピンは、バッテリー電源入力としてのみ使用できます。UPSへの接続専用です。	11～13.7 V DC、最大36 W

トラブルシューティング

工場出荷時の設定にリセットします。

重要

工場出荷時の設定へのリセットは慎重に行ってください。工場出荷時の設定へのリセットを行うと、IPアドレスを含むすべての設定が工場出荷時の値にリセットされます。

本製品を工場出荷時の設定にリセットするには、以下の手順に従います。

1. 本製品の電源を切ります。
2. コントロールボタンを押した状態で電源を再接続します。*製品概要, on page 12*を参照してください。
3. ステータスLEDが再びオレンジ色に変わるまで、コントロールボタンを押し続けます (25秒間)。
4. コントロールボタンを放します。プロセスが完了すると、ステータスLEDが緑色に変わります。ネットワーク上にDHCPサーバーがない場合、装置IPアドレスは以下のいずれかにデフォルト設定されます。
   - **AXIS OS 12.0 以降を搭載したデバイス:** リンクローカルアドレスサブネット (169.254.0.0/16) から取得
   - **AXIS OS 11.11以前の装置：**192.168.0.90/24
5. インストールおよび管理ソフトウェアツールを使用して、IPアドレスの割り当て、パスワードの設定、製品へのアクセスを行います。

装置のwebインターフェースを使用して、各種パラメーターを工場出荷時の設定に戻すこともできます。[**Maintenance (メンテナンス)** > **Factory default (工場出荷時の設定)**] に移動し、[**Default (デフォルト)**] をクリックします。

AXIS OSのオプション

Axisは、アクティブトラックまたは長期サポート (LTS) トラックのどちらかに従って、装置のソフトウェアの管理を提供します。アクティブトラックでは、最新の製品機能すべてに常時アクセスできますが、LTSトラックの場合、バグフィックスやセキュリティ更新に重点を置いた定期的リリースが提供される固定プラットフォームを使用します。

最新の機能にアクセスする場合や、Axisのエンドツーエンドシステム製品を使用する場合は、アクティブトラックのAXIS OSを使用することをお勧めします。最新のアクティブトラックに対して継続的な検証が行われないサードパーティの統合を使用する場合は、LTSトラックをお勧めします。LTSにより、大きな機能的な変更や既存の統合に影響を与えることなく、サイバーセキュリティを維持することができます。Axis装置のソフトウェア戦略の詳細については、*axis.com/support/device-software*にアクセスしてください。

AXIS OSの現在のバージョンを確認する

装置の機能はAXIS OSによって決まります。問題のトラブルシューティングを行う際は、まずAXIS OSの現在のバージョンを確認することをお勧めします。最新バージョンには、特定の問題の修正が含まれていることがあります。

AXIS OSの現在のバージョンを確認するには:

1. 装置のwebインターフェース > [**Status (ステータス)**] に移動します。
2. [**Device info (デバイス情報)**] で、AXIS OSのバージョンを確認します。

AXIS OSをアップグレードする

重要

- デバイスソフトウェアのアップグレードでは、既定の設定とカスタマイズ設定が保存されます。Axis Communications ABは、新しいAXIS OSバージョンで機能が利用可能であっても、設定が保存されることを保証できません。
- AXIS OS 12.6以降、お使いのデバイスの現在のバージョンからアップグレードバージョンまでのすべてのLTSバージョンをインストールする必要があります。たとえば、現在インストールされているデバイスソフトウェアのバージョンがAXIS OS 11.2の場合、デバイスをAXIS OS 12.6にアップグレードする前に、LTSバージョンであるAXIS OS 11.11をインストールする必要があります。詳しくは、*AXIS OS Lifecycleガイド: アップグレードパス*を参照してください。
- アップグレードプロセス中は、デバイスを電源に接続したままにしてください。

注

- アクティブトラックのAXIS OSの最新バージョンで装置をアップグレードすると、製品に最新機能が追加されます。アップグレードする前に、AXIS OSと共に提供されるアップグレード手順とリリースノートを必ずお読みください。AXIS OSの最新バージョンとリリースノートについては、*axis.com/support/device-software*にアクセスしてください。
- データベースのユーザーやグループ、認証情報、その他のデータの更新は、AXIS OSのアップグレード後に行われるため、最初の起動が完了するまで数分かかることがあります。必要な時間はデータの量によって異なります。

1. AXIS OSのファイルをコンピューターにダウンロードします。これらのファイルは*axis.com/support/device-software*から無料で入手できます。
2. デバイスに管理者としてログインします。
3. [Maintenance (メンテナンス)] >[AXIS OS upgrade (AXIS OSのアップグレード)] に移動し、[Upgrade (アップグレード)] をクリックします。

アップグレードが完了すると、製品は自動的に再起動します。

4. 製品の再起動後、Webブラウザーのキャッシュをクリアします。

技術的な問題と解決策

AXIS OSのアップグレード時の問題

AXIS OSアップグレード失敗

アップグレードに失敗した場合、装置は前のバージョンを再度読み込みます。最も一般的な理由は、AXIS OSの間違ったファイルがアップロードされた場合です。装置に対応したAXIS OSのファイル名であることを確認し、再試行してください。

AXIS OSのアップグレード後の問題

アップグレード後に問題が発生する場合は、[Maintenance (メンテナンス)] ページから、以前にインストールされたバージョンにロールバックします。

IPアドレスの設定で問題が発生する

IPアドレスを設定できない

- デバイス用のIPアドレスと、デバイスへのアクセスに使用するコンピューターのIPアドレスが異なるサブネットにある場合は、IPアドレスを設定することはできません。ネットワーク管理者に連絡して、適切なIPアドレスを取得してください。
- そのIPアドレスは別のデバイスで使用されている可能性があります。以下の手順で確認してください。
  1. デバイスをネットワークから切断します。
  2. コマンドウィンドウまたはDOSウィンドウで、`ping`コマンドとデバイスのIPアドレスを入力します。
  3. 「`Reply from <IP address>: bytes=32; time=10...`」と表示された場合は、ネットワーク上の別のデバイスでそのIPアドレスがすでに使われている可能性があります。ネットワーク管理者から新しいIPアドレスを取得し、デバイスを再度インストールしてください。
  4. 「`Request timed out`」が表示された場合は、そのAXISデバイスにそのIPアドレスを使用できます。この場合は、すべてのケーブル配線をチェックし、デバイスを再度インストールしてください。
- 同じサブネット上の別のデバイスとIPアドレスの競合が発生している可能性があります。DHCPサーバーによって動的アドレスが設定される前は、Axisデバイスは静的IPアドレスを使用します。つまり、デフォルトの静的IPアドレスが別のデバイスでも使用されていると、デバイスへのアクセスに問題が発生する可能性があります。

デバイスへのアクセスの問題

ブラウザからデバイスにアクセスする際、ログインできない

HTTPSが有効になっている場合、ログインを試行するときに正しいプロトコル (HTTPまたはHTTPS) を使用していることを確認します。場合によっては、ブラウザのアドレスフィールドに手動で`http`または`https`を入力する必要があります。

rootアカウントのパスワードを忘れた場合は、デバイスを工場出荷時の設定にリセットする必要があります。手順については、*工場出荷時の設定にリセットします。, on page 20*を参照してください。

DHCPによってIPアドレスが変更された

DHCPサーバーから取得したIPアドレスは動的なアドレスであり、変更されることがあります。IPアドレスが変更された場合は、AXIS IP UtilityまたはAXIS Device Managerを使用してデバイスのネットワーク上の場所を特定してください。デバイスのモデルまたはシリアル番号、あるいはDNS名 (設定されている場合) を使用してデバイスを識別します。

必要に応じて、静的なIPアドレスを手動で割り当てることができます。手順については、*axis.com/support*にアクセスしてください。

IEEE 802.1X使用時の証明書エラー

認証を正しく行うには、Axisデバイスの日付と時刻をNTPサーバーと同期させなければなりません。[**System (システム) > Date and time (日付と時刻)**] に移動します。

ブラウザがサポートされていません

推奨ブラウザーのリストは、*ブラウザーサポート, on page 4*を参照してください。

外部からデバイスにアクセスできません

装置に外部からアクセスする場合は、以下のいずれかのWindows®向けアプリケーションを使用することをお勧めします。

- AXIS Camera Station Edge:無料で使用でき、基本的な監視ニーズがある小規模システムに最適です。
- AXIS Camera Station Pro:90日間の試用版を無料で使用でき、中小規模のシステムに最適です。

手順とダウンロードについては、*axis.com/vms*にアクセスしてください。

MQTTの問題

MQTTオーバSSLを使用してポート8883経由で接続できない

ファイアウォールは、ポート8883を使用する通信を安全ではないとみなし、ブロックします。

場合によっては、サーバー/ブローカーによってMQTT通信用に特定のポートが提供されていない可能性があります。この場合でも、HTTP/HTTPSトラフィックに通常使用されるポート経由でMQTTを使用できる場合もあります。

- サーバー/ブローカーが、通常はポート443経由で、WebSocket/WebSocket Secure (WS/WSS) をサポートしている場合は、代わりにこのプロトコルを使用してください。サーバー/ブローカープロバイダーに問い合わせて、WS/WSSがサポートされているかどうか、どのポートと基本パスを使用するかを確認してください。
- サーバー/ブローカーがALPNをサポートしている場合、MQTTの使用は443などのオープンポートでネゴシエートできます。ALPNのサポートの有無、使用するALPNプロトコルとポートについては、サーバー/ブローカーのプロバイダーに確認してください。

ここで解決策が見つからない場合は、*axis.com/support*のトラブルシューティングセクションに記載されている方法を試してみてください。

パフォーマンスに関する一般的な検討事項

考慮すべき最も重要な要因:

- 貧弱なインフラによるネットワークの使用率が高いと帯域幅に影響します。

サポートに問い合わせる

さらにサポートが必要な場合は、*axis.com/support*にアクセスしてください。

T10181936_ja

2026-10 (M12.2)

© 2022 – 2026 Axis Communications AB